

## 研修報告(2) マレーシアからの研修生

### 《研修スケジュール》

9/18(日)	日本着
9/20(火)	各セッション見学、歓迎会
9/21(水)	おかし屋研修
9/22(木)	レストラン研修
9/25(日)	徳島県
～	(社福)愛育会
9/27(火)	地域生活総合支援センター見学
9/28(水)	おかし屋研修
9/29(木)	おかし屋研修、ホーム宿泊研修
9/30(金)	ホーム宿泊、NPO法人さをりひろば見学
10/1(土)	観光
10/2(日)	ぱれっとバザー値付け作業
10/4(火)	しゅやボランティアセンター見学 ラウンジ「せせらぎ」見学 はあとぴあ原宿見学
10/5(水)	(社福)嬉泉 子どもの生活研究所見学 NPO法人渋谷なかよしぐるーぷ見学
10/6(木)	都立青鳥特別支援学校見学 ぱれっと親の会、たまり場会議
10/7(金)	(社福)かれん見学 渋谷郵便局見学、ムヒバの会懇親会
10/8(土)	ぱれっと理事会挨拶 いこっと交流、バザー準備
10/9(日)	ぱれっと福祉バザー
10/11(火)	報告会準備
～	つうしん作業
10/13(木)	報告会、フェアウェルパーティ 帰国

### 《同行スタッフより見学先の報告》

#### ●ラウンジ「せせらぎ」、

はあとぴあ原宿 (広橋)

ラウンジ「せせらぎ」は、開放的な雰  
囲気で、地域の方々や施設に来た人達の  
憩いの場所になっています。おかし屋ぱ

れっとの前田さんが週2回こちらで働  
いているとのことで、この日に見た前田  
さんの働き振りは、とてもきびきびして  
いて、見ていてとても気持ちの良いもの  
でした。

はあとぴあ原宿は、常時30名の方が  
宿泊されていて、50名の方が7つの作  
業所で仕事をされているとのことで、建  
物は大きく、中も明るくとても広々とし  
た印象を受けました。作業所で見せて頂  
いた作品の中には、玄人ではと思える物  
もあり、とても感心させられました。



【はあとぴあ原宿の作業場を見学】

#### ●都立青鳥特別支援学校 (前川)

都立青鳥特別支援学校はコース別の  
教育課程が東京都のモデルになってい  
る学校です。ポーリンさんは今回の研修  
で初めて日本の特別支援学校を見学し  
ました。ちょうど「清掃部門」による作  
業学習を見学する事が出来ました。先生  
の指導のもと生徒達が行なう清掃作業  
のレベルの高さに、ポーリンさんだけ  
ではなく同行したスタッフも感心させら  
れました。ポーリンさんは、今回の見学  
でコース別に教育課程を設ける事で、一  
人一人に合ったきめ細かい教育指導が  
行なえていて、個人のスキルアップとい  
う結果を出している事にとっても興味を  
持ったと話していました。

## ●社会福祉法人 かれん (長澤)

社会福祉法人かれんは神奈川県の大倉山駅近辺を拠点に、障害のある人たちの働く場としてギャラリー工房やカフェ、自然食品の販売・提供など、5つの場所にて活動を展開しています。

今回はギャラリーと工房のお店である「アートかれん」を中心に見学させて頂きました。絵画、手織り、紙すきの制作に加え、ギャラリーの企画、運営も行なっています。工房に入ると色鮮やかな作品が立ち並び、その作品は作る人の個性が活かされたものばかりです。

また、生活の自立という面においても力を入れており、見学の時には、自分たちの食べる昼食作りもされていました。

## ●渋谷郵便局 (三浦)

渋谷郵便局内にある日本郵政グループの特例子会社、ゆうせいチャレンジド株式会社に見学に行きました。そこでは現在6名の知的に障害のある方が働いており、その中の一人におかし屋ぱれっとの元通所員である宮沢好彦さんもいます。指導者であるシニアコーチとコーチの下、ビル内の決められた場所の清掃を任されており、皆さんはしっかり仕事をこなしていました。シニアコーチは「コミュニケーションに必要な話が出るだけでなく、与えられた仕事にどれだけ集中できるかが大切だ」とお話してくださいました。このことはポーリンさんの心にも大きく響いたようでした。

## ポーリンさん 研修を終えての感想

まず、この有意義な研修の機会を与えていただいたことに、お礼を申し上げます。新しい多くの体験、頂いたたくさんの教をデイセンター「ムヒバ」の利用者に役立て、彼らが暮らす地域での暮らしを自らのもの出来るよう、今後も本気で取り組みたいと思います。

「ぱれっと」の、障害を持つ人たちに「障害」のレッテルでなく、皆が協力し合って取り組む姿に敬服し、「ムヒバ」においてもより高い精神性に習いたいと思いました。「ムヒバ」利用者の地域での「自立」について、スタッフみんなで討論し続け、模索したいと思っています。

デイセンター「ムヒバ」が、地域で特別のサポートを必要とする人たちや地域社会全体にとって役立つ場になれるようにというのが、私の願いであり展望です。私たちの地域でもボランティアが必要だと感じました。それによって、住民が各々役割を理解し、正しく認識し、地域でより役立つ場になれるでしょう。これは、障害者の技術を磨くだけでなく、意欲のサポートが必要ということでもあります。

この研修では訪れた各々の(全ての)場所の担当者から、今後の活動を構築するのに必要なたくさんの示唆をいただきました。「ぱれっと」の皆さんからたくさんの優しさを頂いて、身に負いきれない借りが出来たような気がします。私は、常にいただいた適切な助言や示唆を思い出しながら、自分が何をすべきか考え行動することで報いたいと思います。

受け入れてくださった皆様のご親切に、言い尽くせぬ感謝を申し上げます。